

築地まちづくりの大きな視点について（概要）

はじめに

○検討会議の役割（P2）

- ・長期的時間軸に立った築地再開発の今後の検討と実施の「枠組み」を提供すること

1 立地条件の最大限活用

○交通結節点を戦略的に形成すべき（P6）

- ・舟運、地下鉄など広域性の高い交通インフラから構成

2 時間軸を見据えた周辺との有機的つながり強化

○都心の大規模な敷地で、都民の貴重な財産である。価値をより高めるため、周辺の様々な資源とのつながりを重視すべき（P8、10）

- ・楽しく歩ける歩行者のネットワークを形成し、広域的な回遊性を高めていくこと
- ・特に、浜離宮との連続性を生かしていくこと

○インフラの検討・整備の状況も勘案しながら、段階的開発により価値の最大化を図るべき（P10）

3 地域のブランド価値の再構築

○周辺と連携し、新たな築地ブランドを創造しながら、人々が集う交流拠点を形成すべき（P12）

○日本人の伝統的食生活・習慣の中核に根差す世界にも知られたブランドを先端技術も活用し、後世に伝える工夫をすべき（P12）

○潜在的ブランドを顕在化する努力を行いつつ、将来の都民にとっての新たな価値を創出すべき（P12）

4 新たな築地が持つべき機能と空間のあり方

○大規模な敷地特性に応じて、戦略的に機能を導入する（P15）

- ・「東京及び日本全体にとって重要な役割を担うこと」
「環境技術など新技術の展開を見据える」
「経済合理性を意識しながら東京に不足しているものを補う」などの視点を重視していく

○将来のニーズ喚起などのための一定のスペースの確保や、そのスペースの効果的な利用のためのマネジメントについても検討すべき（P15）

○東京の競争力を高めていくため、良質な公園や広場などを適切に確保すること（P15）

○23ヘクタール内の地域特性に応じた空間イメージの基本的考え方を提示（P16、17）

5 ガバナンス体制の構築

○一定の経済合理性を確保しながら、総合的に価値の最大化を図ること（P18）

○一貫した方針に基づき、中長期的開発のマネジメントを行っていくべき（P18）

○ガバナンス組織の設置についても検討すべき（P18）